

# 中高生、命の大切さ実感

東山で「赤ちゃんとの交流事業」

## 出産時の苦勞や喜び聞く

お店やさんごっこで赤ちゃんたちと対面する  
中高生ら(京都市東山区・新道児童館)



「中高生と赤ちゃんとの交流事業」が19日、京都市東山区の新道児童館で開かれた。中学生、高校生らが出産の喜びを聞き、「お店やさんごっこ」を通じて、命と育児の大切さを学んだ。

同児童館が、日ごろ館を利用して中高生や、就園前の子どもを育てる親たちと呼びかけて開いた。親子9組11人と中高生17人、洛和会京都厚生学校助産学科の学生8人が参加した。

母親たちは自己紹介で、出産時の苦勞を振り返りながら、誕生した赤ちゃんについて「信じられないくらいかわいい」「お父さんにそっくりだった」など感想を述べた。お店やさんごっこで

は、中高生らが紙で作った果物や弁当、キャディーなどの店を出し、よちよち歩きの赤ちゃんたちと対面。京都女子高1年鉤涼佳さん(15) 〓大津市〓は

「小さい子どもが大好き。動作で気持ちを伝えたら笑顔になってく

れ、楽しかった」と話していた。  
(今川敦士)